

平成 28 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス						
教科目名	建築構法 I	担当教員	清水隆宏			
学年学科	1 年 建築学科	前期	必修	1 単位		
学習・教育目標	(D-2) 100%					
授業の目標と期待される効果： 建築にまず求められる機能は、安全に使用できること・必要な空間を確保していることである。この授業では、主に建築構造の基本となる事項を幅広く学習し、続く専門科目を理解するための基礎知識を習得し、それらを建築設計に活用する手段を理解することを目標とする。 (1) 建築構造の基本構成を理解する (2) 多様な建築構法の存在を理解する (3) 木質構造の材料や構成を理解する		成績評価の方法： 中間試験 100 点＋期末試験 100 点、合計 200 点の総得点率 (%) により成績評価を行う。 また、授業に対する姿勢も考慮し、授業の進行を妨げる行為・消極的な行為に対しては、得点率の 1～10% を減じた値で評価する。 具体的には、出席簿に記載した注意の回数と減点 (%) を対応させる。 達成度評価の基準： 以下の(1)～(7)に関連する問題を出題し、それぞれ 6 割以上の正答レベルに達していること。 (1) 建築構造の基本構成の理解 (2) 多様な建築構法の存在の理解 (3) 木質構造の材料や構成の理解				
授業の進め方とアドバイス： 授業は、教科書と板書を中心に行うので、各自学習ノートを充実させること。 適宜参考となる資料等を示すので、予習・復習を必ず行うこと。 また、常日頃から身の回りの建築に注意し、その構法に興味を持つ姿勢が重要である。						
教科書および参考書： 教科書：建築構造（実教出版） 授業資料：プリント類（適宜配布）						
授業の概要と予定：						AL のレベル
第 1 回：建築構法で学習する内容のあらまし、世界の建築構法						
第 2 回：建築物の構成要素						
第 3 回：建築物に影響を与える力						
第 4 回：構造計画の考え方、建築構造の分類						
第 5 回：木質材料の種類と性質						
第 6 回：木質構造の種類						C
第 7 回：木質構造の接合方法						
第 8 回：中間試験						
第 9 回：木質構造の地業、基礎						
第 10 回：木質構造の軸組、壁の種類						
第 11 回：木質構造の小屋組、床組						
第 12 回：木質構造の階段、開口部						
第 13 回：木質構造の仕上げ（外部、内部）						
第 14 回：木造枠組壁工法、日本伝統建築の構法						
期末試験						
第 15 回：木質構造のまとめ						

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	建築構造の基本構成が理解できる（8割以上）。	建築構造の基本構成がほぼ（6割以上）理解できる。	建築構造の基本構成が理解できない。
②	多様な建築構法の存在が理解できる（8割以上）。	多様な建築構法の存在がほぼ（6割以上）理解できる。	多様な建築構法の存在が理解できない。
③	木質構造の材料や構成が理解できる（8割以上）。	木質構造の材料や構成がほぼ（6割以上）理解できる。	木質構造の材料や構成が理解できない。